

ペスタロッチー・フレーベル学会 課題研究

関東地区第9回 研究発表会報告

関東地区課題研究 第9回会合は、次のように開催されました。そのレジュメは、資料として、添付します。

日時:2012年07月21(土)PM14:00～17:00

場所:中央大学理工学部6号館8階、人文社会教室会議室(6814号室)

出席者

小田倉泉、岸信行、豊泉清浩、中島朋紀、湯川嘉津美

欠席者

駒木根剛、佐久間裕之、鳥光美緒子、黛幸一郎

研究発表者と題目

豊泉 (群馬大学)

「フレーベル教育学研究における父性と母性の観点について」

中島朋紀(鎌倉女子大学短期大学部)

「道徳性の育成における親子関係～ペスタロッチーの教育関係を手掛かりとして～」

第9回研究発表会では、豊泉 清浩会員と中島朋紀会員によって上記題目で研究発表が行われた。まず、中島会員は、ペスタロッチーの活動が子育ての援助となる側面を彼の理論から導き出し、ボルノウの「教育的雰囲気」からの援用も交えて、家族の相互理解、協同体に生きることの大切さを強調した。簡単な質疑応答の後、豊泉会員

は、フレーベルにおいては表面に出て来ない「父性」について、主としてユングの深層心理学を手掛かりに、主としてグノーシス派のキリスト教をとりあげ、フレーベル教育学の背後にある「宗教観」について論じた。両会員ともペスタロッチー、フレーベルの背景となる考え方(思想・哲学・宗教観)を探求することにより、彼らが「子育て」において、何を一番大切だと考えていたかを明らかにするとともに、それが現代日本の「子育て支援」にどのような意義をもつかという観点から興味深い指摘がなされた。

質疑応答の後、出席者の感想が述べられ、それぞれの研究の立場から、有意義な見解が披瀝され、現実の「子育て支援」には、その背後に、何を大切に考えるのかという思想的基盤が希薄であるという指摘もなされ、それに対しての基礎的な研究も必要となるであろうという意見も出て、いずれにしても、現代日本の「子育て支援」を政策として掲げている政党に、「何を、どう」実現していく方針なのかという指針が明確にみえてこないことが、若い母親たちの苛立ちの大きな原因の一つになっていることは事実であろう。

この「課題研究」は、そのような漠然とした「子育てにおける不安」に答える任務も負っているようにも思える。出席者による討議も内容の濃い充実したものとなり、本日の二つの発表は有意義なものとなった。会は、予定通り、午後5時頃に終了した。

次回の研究発表会の開催予定は、次の通り。

日時: 10月06日(土) PM14:00~17:00

場所: 中央大学理工学部 6号館 8階、人文社会教室会議室(6814号室)

発表者・発表題

鳥光 奈緒子 「幼稚園の構想」

湯川 嘉津美